



20
まいん

なんこういんほんぼうえんつうじ
南光院本坊圓通寺



昭和37年(1962)4月撮影
松浦 勲氏提供

なんこういん
南光院は、南光院快盛法印をまつ祀ったお寺です。

元禄7年(1694)住友の要請により別子銅山に迎えられ、鉱夫たちの精神教化に努め、病人に医薬を施したり、薬草の採取や炭焼きなどを指導するなど、別子山中の人々から尊敬されていました。

やまびと
銅山人の御霊のみたま
南光院さん

宝永3年(1706)9月9日、62歳で世を去った後、寛政年間(1790)に社殿が建立され、別子銅山の守護神として祀られました。そして、山で働く人々の信仰の中心となり、精神道場としての役割を果たし、年間数万人の参拝客がここを訪れるほどのにぎわいがありました。

明治7年(1874)に神仏分離にともない圓通寺を守る仏様となり、現在に至っています。

現在の社殿は、明治12年再建されたものです。



現在の南光院さん



地藏菩薩鉦石立像



住友家の持仏
阿弥陀如来像

えんつうじ
圓通寺は、鎌倉時代に近藤季俊によって土佐の国(高知県)大北川に建立されたのが始まりです。

明治32年の別子大水害後、明治34年にこの地へ新築移転されました。なお、小足谷には出張所が設けられていました。

ここには、別子銅山で産出された銅鉦石でつくられた地藏菩薩像や住友家の持仏である阿弥陀如来立像など諸仏が納められています。

南光院と圓通寺は同じ境内にあり、親しみをこめて「南光院さん」と呼ばれています。



めんどり 良全さん
妻鳥 良全さん

ふれあいめぐりあい

めんどり 良全
妻鳥 良全

なんこういんほんぼうえんつうじ
南光院本坊圓通寺のご住職さんです。

別子にまつわる逸話や伝説をよくご存じです。また、植物にも大変お詳しく高山植物の写真をご自身で撮影されたり、珍しい植物を境内で数多く育てられています。

やまびと
銅山人の
みたま
御霊を守る

